資料５

江別市の現状について

令和６（２０２４）年７月作成版

江別市のあゆみ

江別の地名の由来は、アイヌ語の「ユベオツ（サメのいる川）」や「イブツ（大事な場所への入口）」など諸説あります。

約１５０年前に移住がスタート

明治４（１８７１）年、宮城県涌谷（わくや）領から２１戸７６人の農民が江別に移住しました。
明治１１（１８７８）年には屯田兵１０戸５６人が入地し、明治政府による開拓使府令が布達され、「江別村」が誕生しました。その後、各地から屯田兵が入地し、計画的な開拓が進められました。

人口増加とともに成長

大正５（１９１６）年に町制施行によって「江別町」となり、昭和２９（１９５４）年には「江別市」が誕生しました。
昭和３０年代後期から４０年代にかけて、札幌市に人口が集中する中、江別市でも人口が急増し、加えて、大学や教育・研究施設の立地、第一工業団地の整備などにより、道央圏の中核を担う都市となりました。
平成３（１９９１）年には、人口１０万人を達成し、令和６（２０２４）年には、市制施行 ７０周年を迎えました。

小さいけれど、平坦で住みやすい地形

石狩平野の中央に位置し、一番高いところは標高９３．０ｍ（西野幌）、低いところは標高２．５ｍ（豊幌）で、全体的には、ほぼ平坦な地形です。総面積は１８７．３８㎢で、石狩管内の市の中では、狭いほうですが、比較的住みやすい地形といえます。

気温の幅は夏と冬で６０℃。一番積もった雪の記録は１７２ｃｍ

１年間の平均気温は７．７℃（過去１０年間平均）です。最高気温の記録は**３５．６℃**（令和３（２０２１）年）、最低気温は**－２７．７℃**（昭和５２（１９７７）年）です。
１年間の平均降水量は ９７２ｍｍ（過去１０年間平均）で、１日で降った最大降雨量は**１８０ｍｍ**（昭和５６（１９８１）年）です。
１年間の最大降雪量は、昭和６０（１９８５）年度に**８６７ｃｍ**、最深積雪量は令和４（２０２２）年２月に**１７２ｃｍ**を記録しています。
日本海から太平洋にかけて四季を通じて風が強く、特に４～５月ごろには南南東の強風が吹きます。

身近に感じられる農業。近年は「麦の里えべつ」としても知られる

農村と住宅街が近接し、農業や農村風景を身近に感じることができます。高速道路や幹線道路へのアクセスが良く、札幌圏をはじめ、消費地への流通網も整えやすい環境です。
稲作、畑作、酪農、肉用牛、施設園芸などが行われていますが、その中でも小麦「ハルユタカ」は生産が安定し、市内の産学官連携により「江別小麦めん」が開発されました。小麦の生産から製粉・製麺・消費までを市内で完結させる地産地消の取組が注目され、「麦の里えべつ」として市内外に知られるようになりました。

ハルユタカ

大学や研究機関が多い

江別市には大学が四つ（酪農学園大学、北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学）と、短大が一つ（北翔大学短期大学部）あるほか、北海道立や民間の研究施設が多くあります。市内には学生が多く住んでおり、市民向けの公開講座が行われたり、大学と連携して地域の課題や活性化に取り組んだりしています。

３市にまたがる広大な公園「野幌森林公園」がある

江別市・札幌市・北広島市の三つの市にまたがる野幌丘陵にある「野幌森林公園」は、大都市近郊でまとまった面積の森林（平地林）が残されている日本国内でも数少ない貴重な公園です。

道路や鉄道のアクセスが良い

札幌市の中心部までは、電車で約２４分、車で約４０分。新千歳空港も快速電車で約６０分、車で約５０分です。
道央自動車道が市内を通り、東西に二つのインターチェンジがあるため、道内各地にも行きやすい環境です。

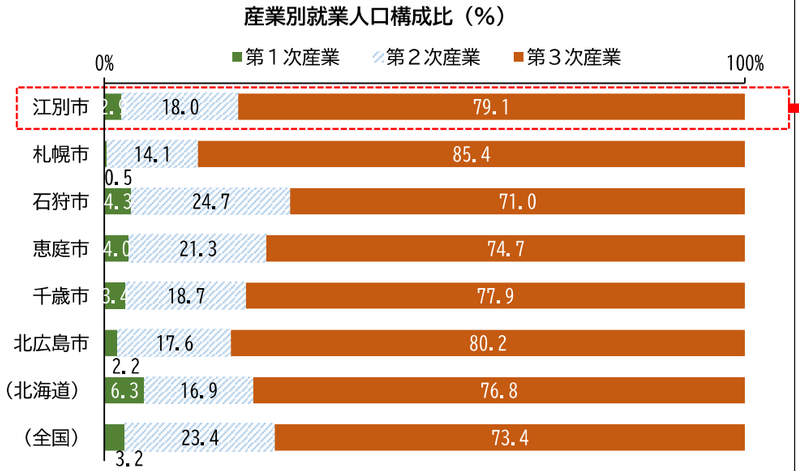
ＥＢＲＩ

約１３０年前から続く
北海道遺産「江別のれんが」

開拓使の奨励により、道内１７の工場でれんがが作られるようになり、北海道庁赤れんが庁舎をはじめ、多くの名建築が生まれました。
江別では、明治２４（１８９１）年に工場ができ、れんがづくりが始まりました。大正以降は、全道一の陶土地帯である江別の野幌周辺が製造の中心でした。
北海道の歴史を支えてきた「江別のれんが」は、平成１６（２００４）年に北海道民全体の宝物として「北海道遺産」に選ばれました。

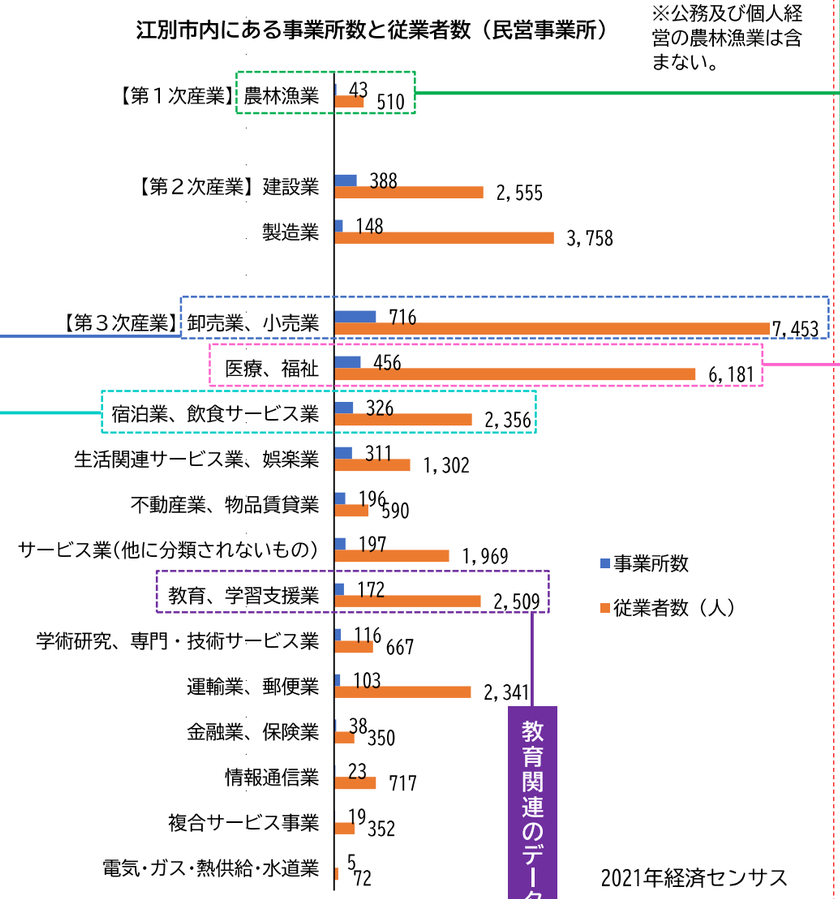
産業について

就業人口の割合を産業分類別で見ると、第１次産業（農業・林業・漁業）や第２次産業（製造業・建設業・鉱業）にあてはまらない、第３次産業が約８割を占めます。



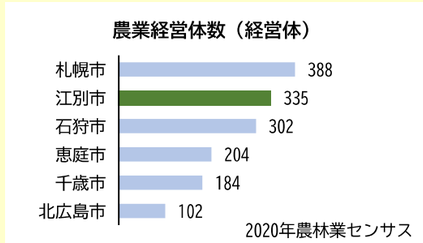
（2020年国勢調査）

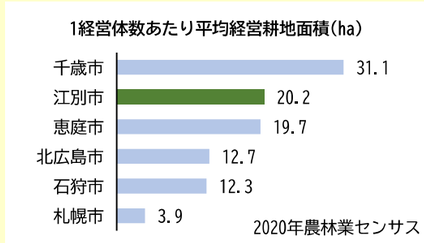
第３次産業の内訳を見ると、「卸売業、小売業」や「医療、福祉」に関する事業所数や従業者数が多い状況です。

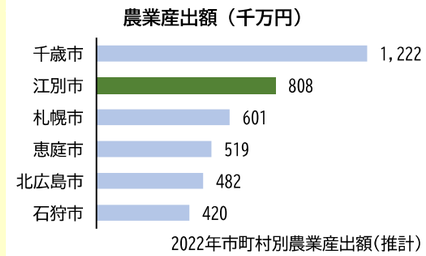


農林漁業は、産業全体での割合は低く、事業所や従業者の数は少ないですが、農業経営体※数は札幌市に次いで多く、１経営体あたりの平均経営耕地面積や農業産出額は、千歳市に次いで多い状況です。

※農業経営体は、家族経営体と組織経営体の合計です。

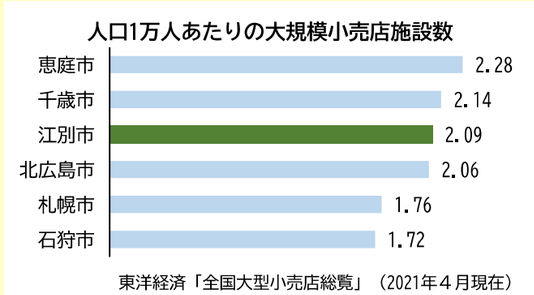




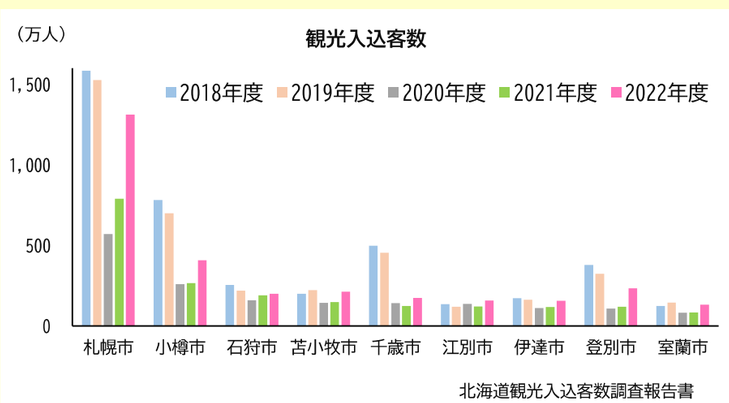


店舗面積が１,０００㎡超の大規模小売店の施設数は、札幌市に次いで多い状況です。

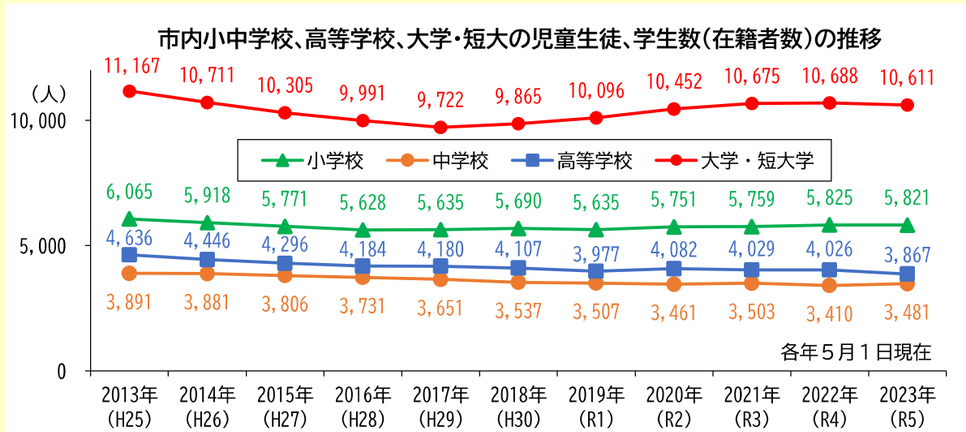
大規模小売店数	
札幌市	345
江別市	25
千歳市	21
恵庭市	16
北広島市	12
石狩市	10



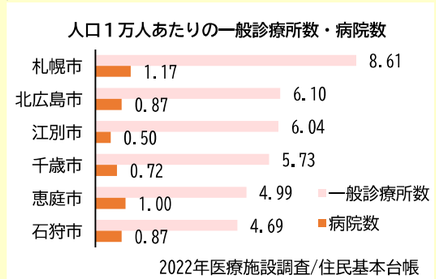
観光入込客数については、他の都市と比較すると、少ないほうです。



市内に大学や研究機関があり、大学や短大に通う学生が約１万人います。
これに伴い、教育、学習支援業に携わる方も多い状況です。



患者２０人以上の入院施設がある病院と、１９人以下の診療所の数を、人口１万人あたりの数値で近隣の市と比較すると、病院は比較的少なめですが、かかりつけ医の役割を担う診療所は平均的な数値です。



農業関連のデータ

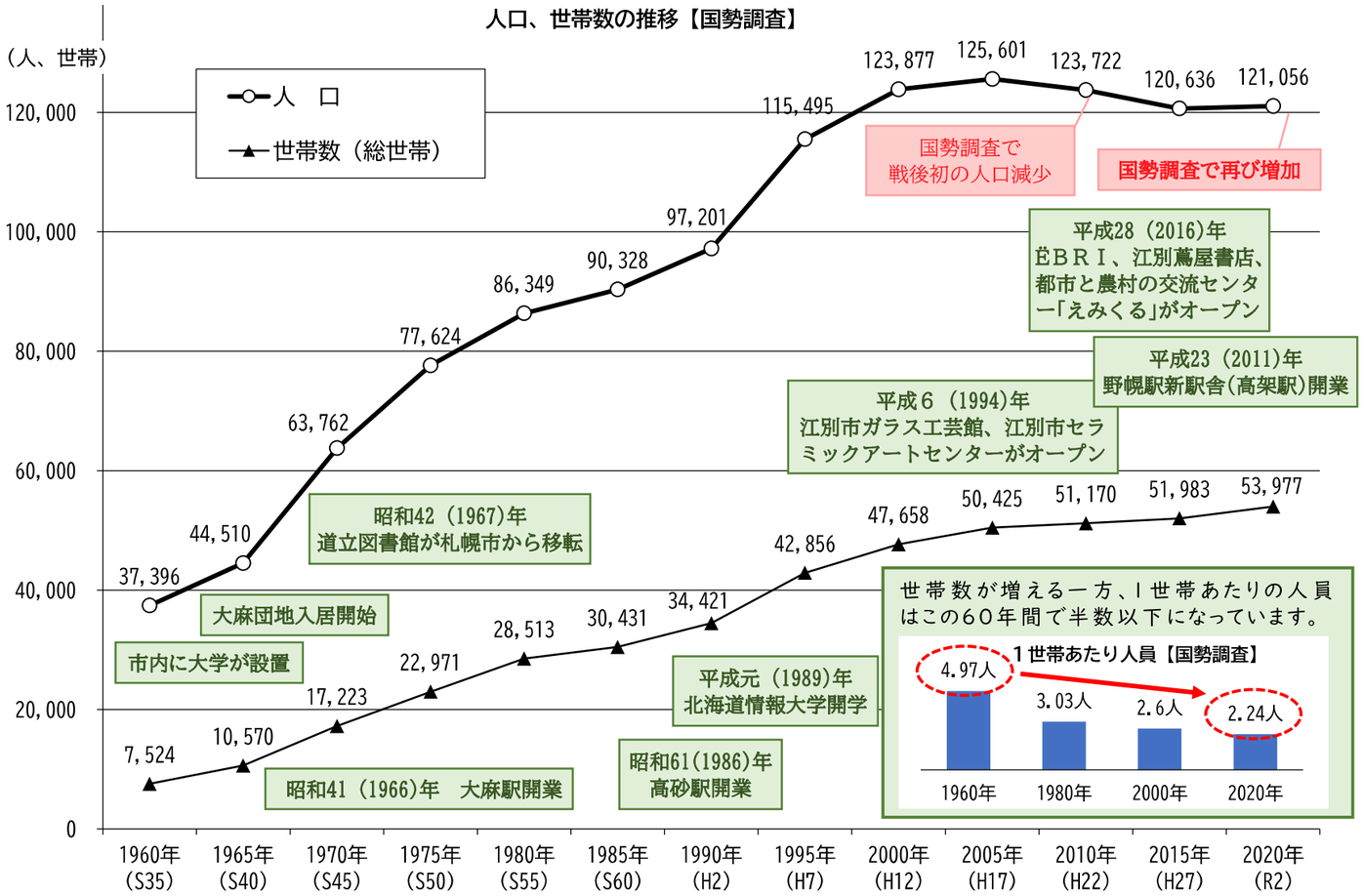
医療関連のデータ

小売業関連のデータ

観光関連のデータ

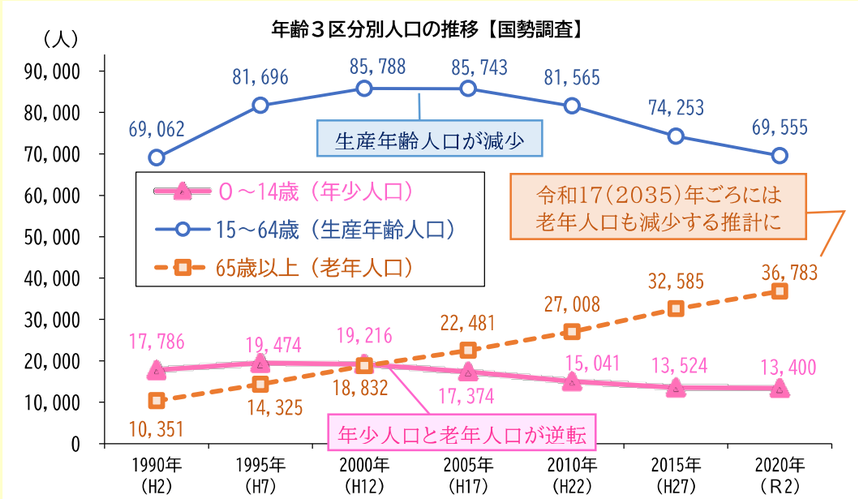
教育関連のデータ

人口や世帯について

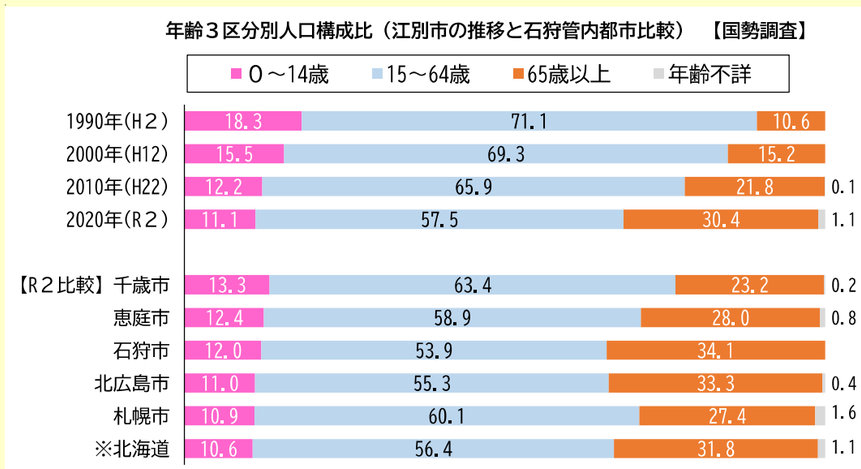


世帯数が増える一方、１世帯あたりの人員はこの６０年間で半数以下になっています。

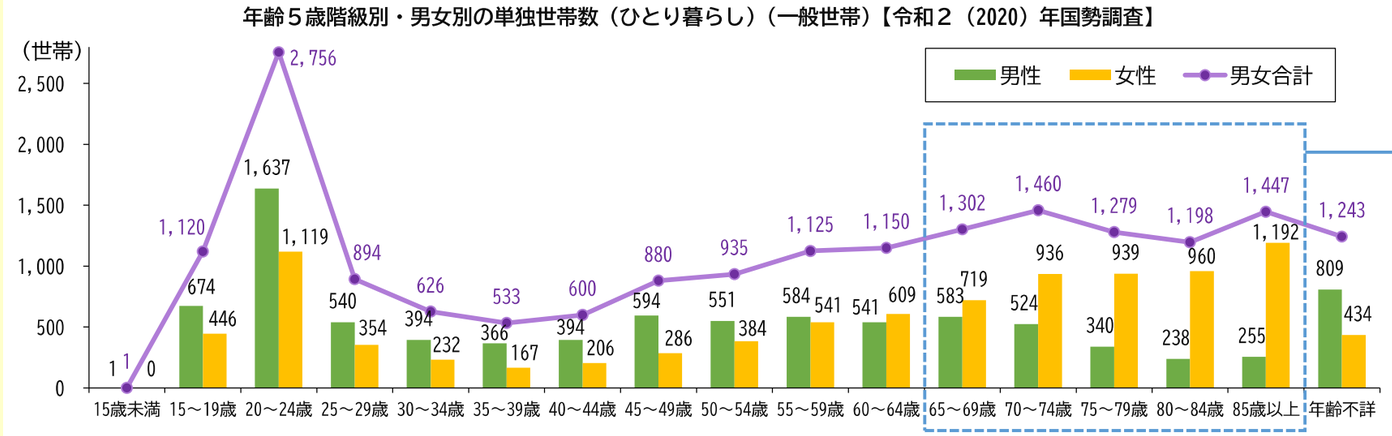
年齢３区分別人口の推移を見ると、年少人口と生産年齢人口は減少し、老年人口は増加しています。



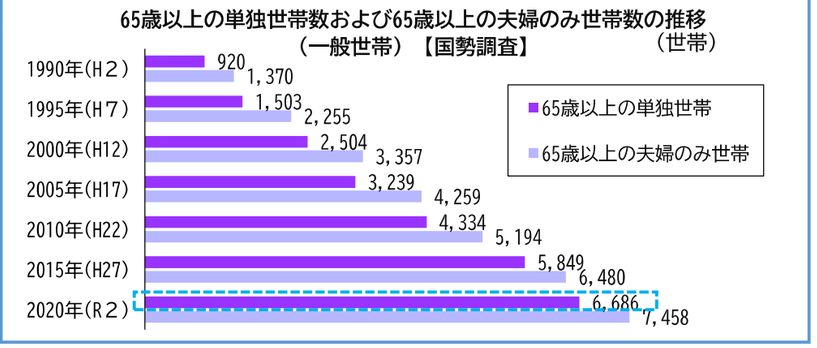
年齢３区分別人口の構成比の推移を見ると、直近５年間で、生産年齢人口の割合が急速に低くなり、老年人口の割合が急速に高まっています。



単独世帯（ひとり暮らし）は、男女とも２０～２４歳で多くなっています。
また、７０歳を超えると、女性のひとり暮らしが男性に比べて多くなっています。

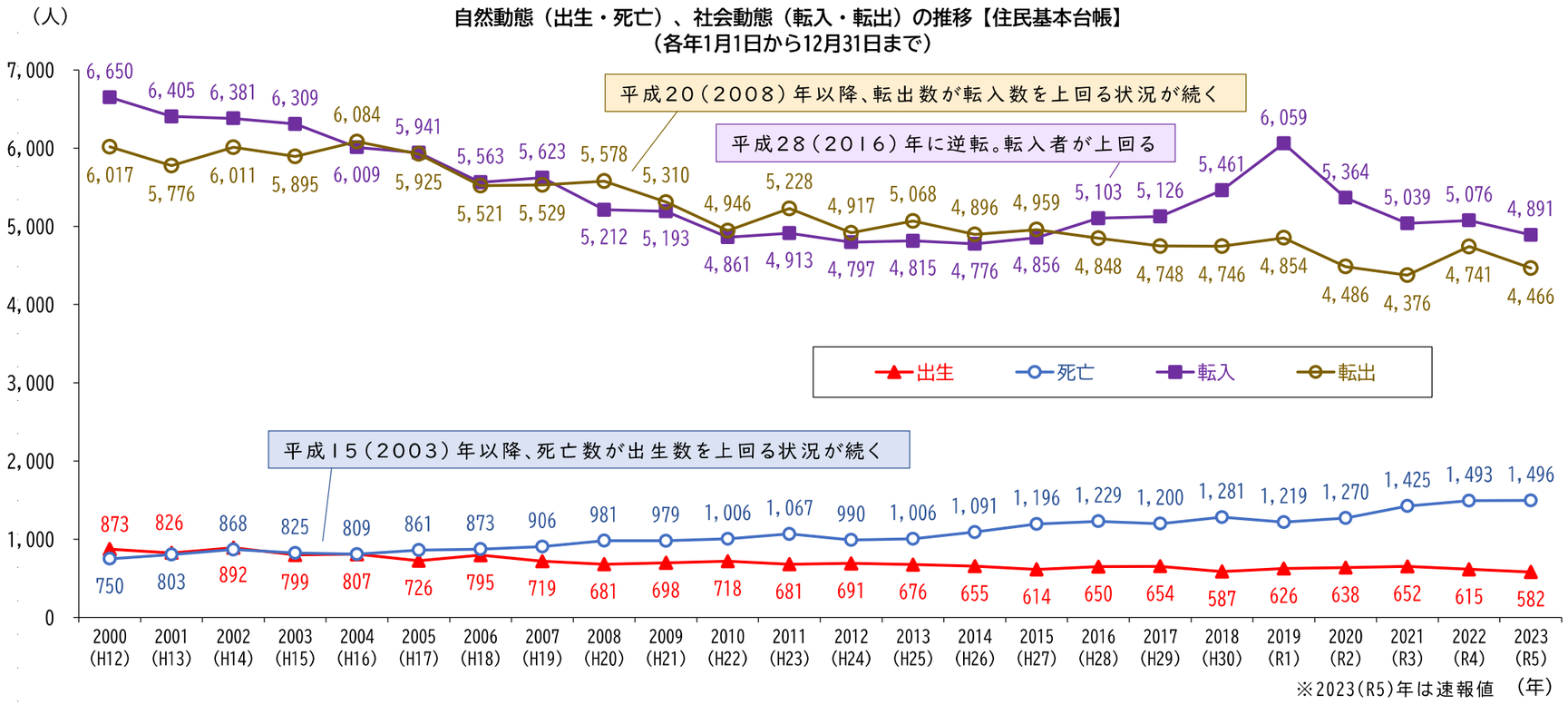


６５歳以上単独世帯（ひとり暮らし）は年々増加しています。
夫婦のみの世帯も年々増えています。

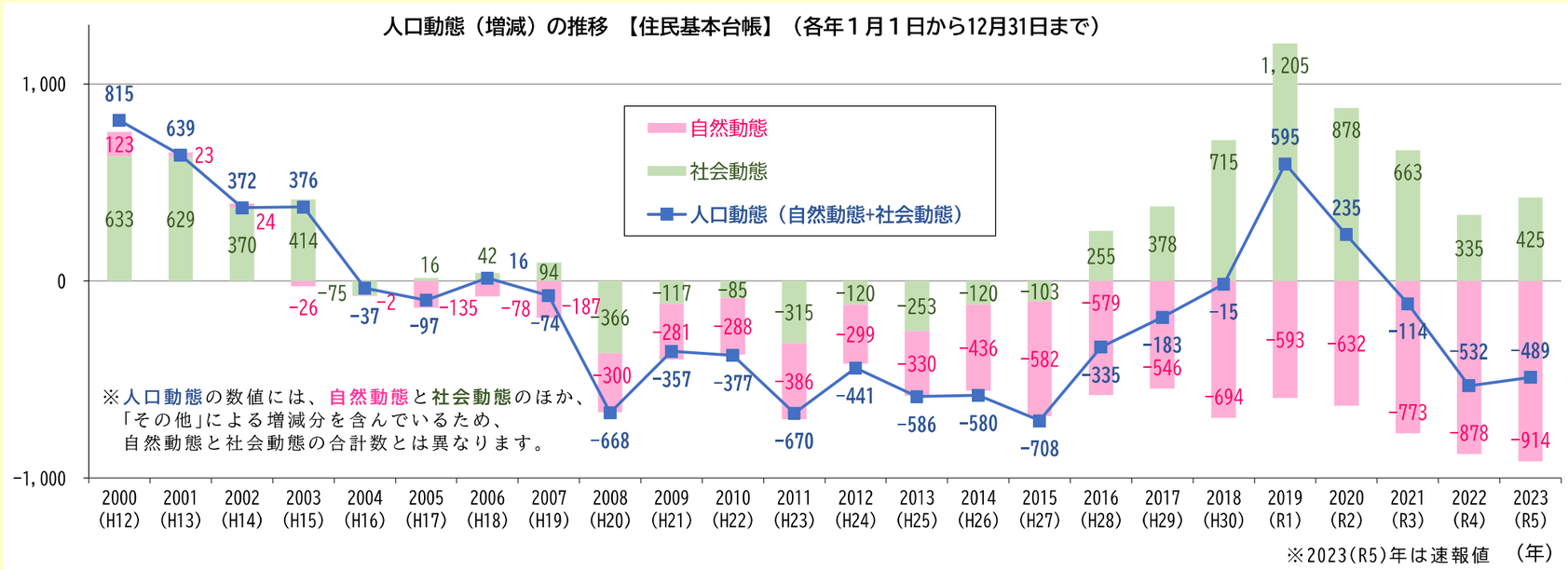


人口動態について

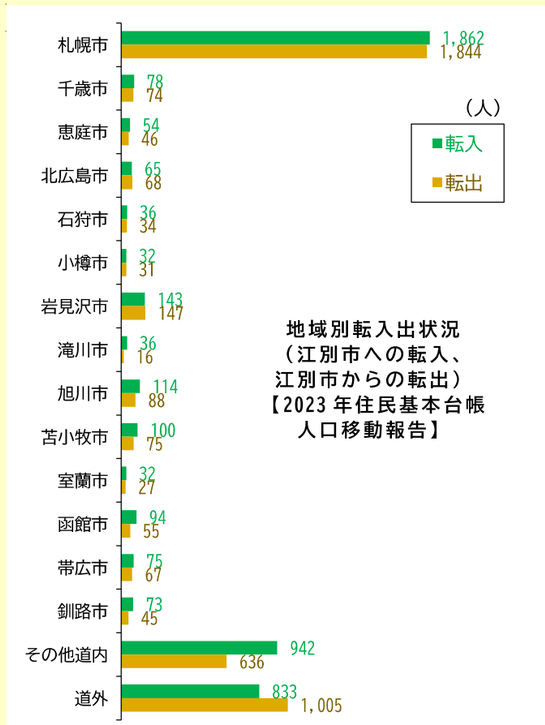
自然動態（出生・死亡に伴う人口の増減）と、社会動態（転入・転出に伴う人口の増減）を合わせた人口の動き（増減）を、「人口動態」といいます。

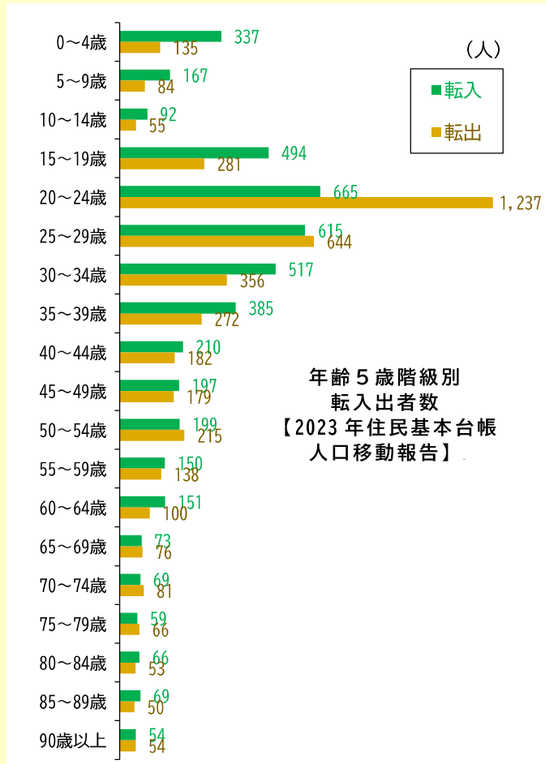


人口動態（自然動態＋社会動態）は、平成１６（２００４）年から平成３０（２０１８）年までは、ほぼマイナスでしたが、令和元（２０１９）年と令和２（２０２０）年はプラスとなり、令和３（２０２１）年からは再びマイナスとなっています。

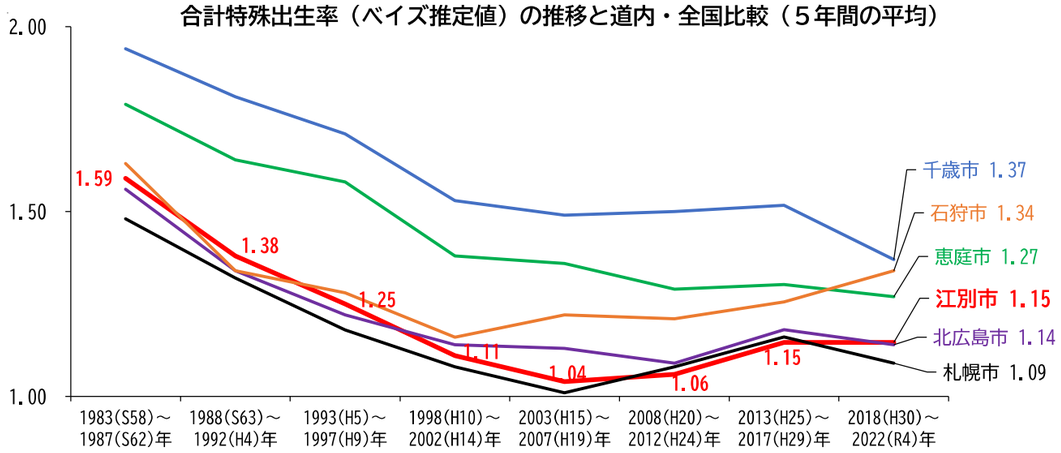


令和５（２０２３）年の転入と転出の状況を見ると、場所は転入・転出ともに札幌市が多く、年齢では２０～２４歳の転出が特に目立ちます。





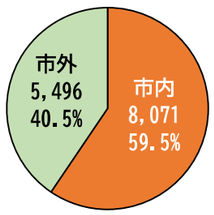
合計特殊出生率※は、石狩管内の他の市と比較すると低いほうです。



※合計特殊出生率：
１５～４９歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。市町村単位では人数が少なく、偶然変動の影響を受け、数値が不安定な動きを示すことがあるため、より広い地域である二次医療圏のグループの出生、死亡の状況を情報として活用する「ベイズ推定」を用いて合計特殊出生率を算出しています。

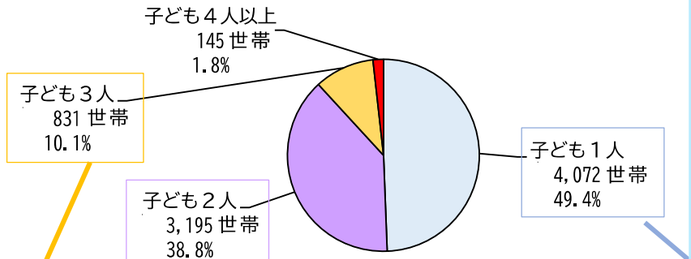
１５歳未満の子どもの出生地に関するデータ

１５歳未満の子ども（13,567人）の市内出生者と市外出生者の割合



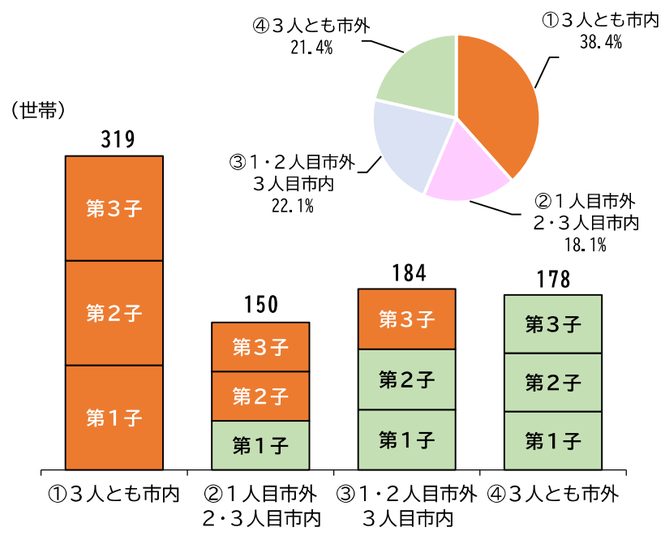
住民基本台帳（R4.1.1 時点）

１５歳未満の子どもがいる世帯（8,243世帯）の子どもの数

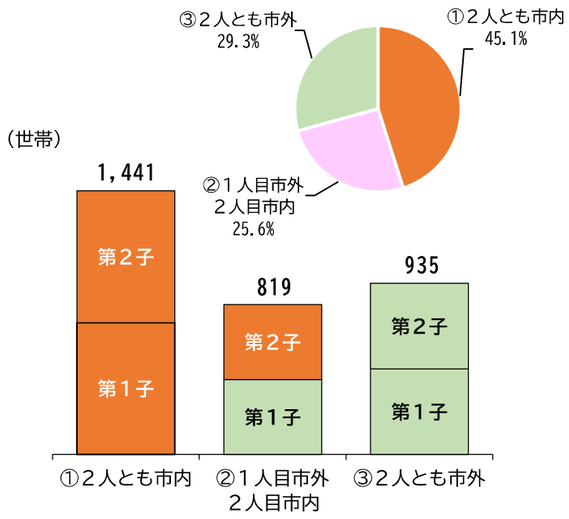


住民基本台帳（R4.1.1 時点）

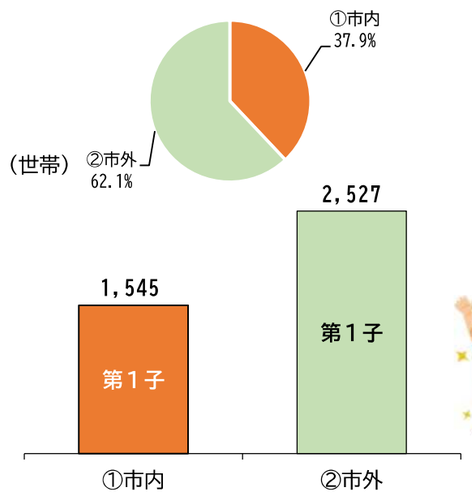
子ども3人世帯（831 世帯）の市内/市外出生状況



子ども2人世帯（3,195 世帯）の市内/市外出生状況



子ども1人世帯（4,072世帯）の市内/市外出生状況



道内35市の状況（1～10位と30～35位）

増減の凡例
↗：増加
→：同じ
↘：減少

<合計特殊出生率※>

順位 今回	順位 前回	市名	数値	前回との増減
1	(15)	富良野市	1.46	↗
2	(6)	名寄市	1.44	↘
3	(3)	留萌市	1.43	↘
	(4)	稚内市		↘
5	(5)	苫小牧市	1.41	↘
6	(20)	三笠市	1.40	↗
7	(10)	登別市	1.38	↘
8	(6)	千歳市	1.37	↘
9	(2)	根室市	1.36	↘
10	(10)	士別市	1.35	↘
●				
●				
29	(25)	岩見沢市	1.16	↘
	(26)	歌志内市		↘
31	(35)	江別市	1.15	→
	(24)	美唄市		↘
33	(33)	北広島市	1.14	↘
34	(32)	小樽市	1.12	↘
35	(34)	札幌市	1.09	↘

＊平成 30(2018)年から令和4(2022)年までの数値(直近の数値)

<総人口に占める子ども(年少人口)の割合>

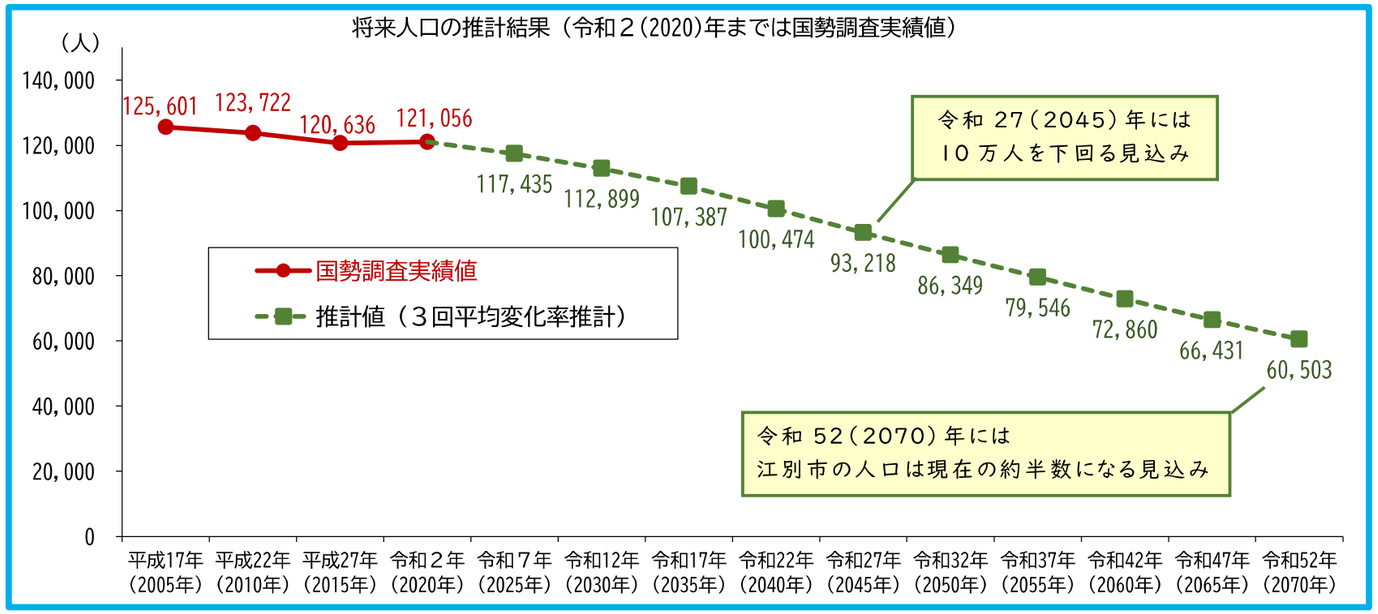
順位 今回	順位 前年	市名	割合(%)	前年との増減
1	(1)	千歳市	12.82%	↘
2	(2)	恵庭市	12.10%	↘
3	(4)	石狩市	11.80%	↘
4	(3)	苫小牧市	11.69%	↘
5	(7)	江別市	11.43%	↗
6	(5)	北斗市	11.24%	↘
7	(6)	帯広市	11.17%	↘
8	(9)	北広島市	10.80%	↘
9	(10)	札幌市	10.76%	↘
10	(8)	名寄市	10.71%	↘
●				
●				
●				
30	(30)	三笠市	7.98%	↗
31	(31)	美唄市	7.11%	↘
32	(32)	芦別市	6.40%	↘
33	(33)	赤平市	6.27%	↘
34	(34)	夕張市	5.22%	↘
35	(35)	歌志内市	4.27%	↘

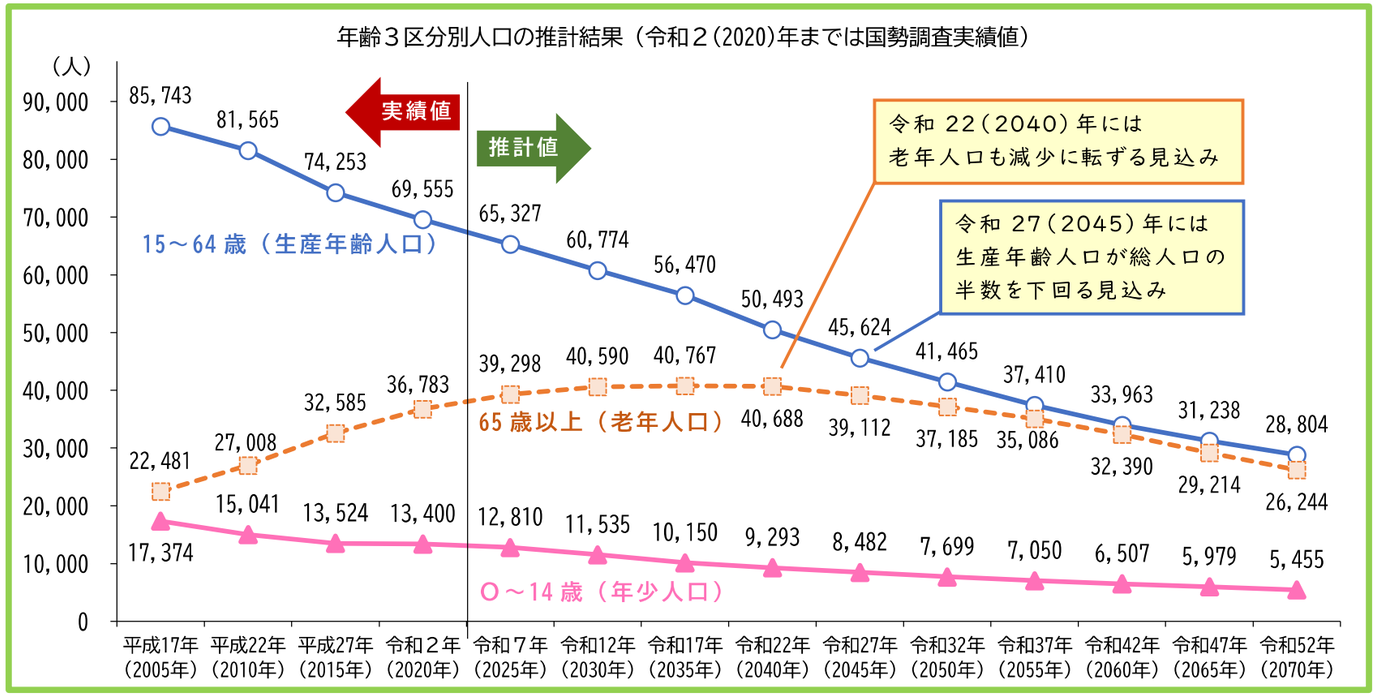
＊令和5年住民基本台帳年齢階級別人口(令和5(2023)年1月1日現在)

将来の人口推計について

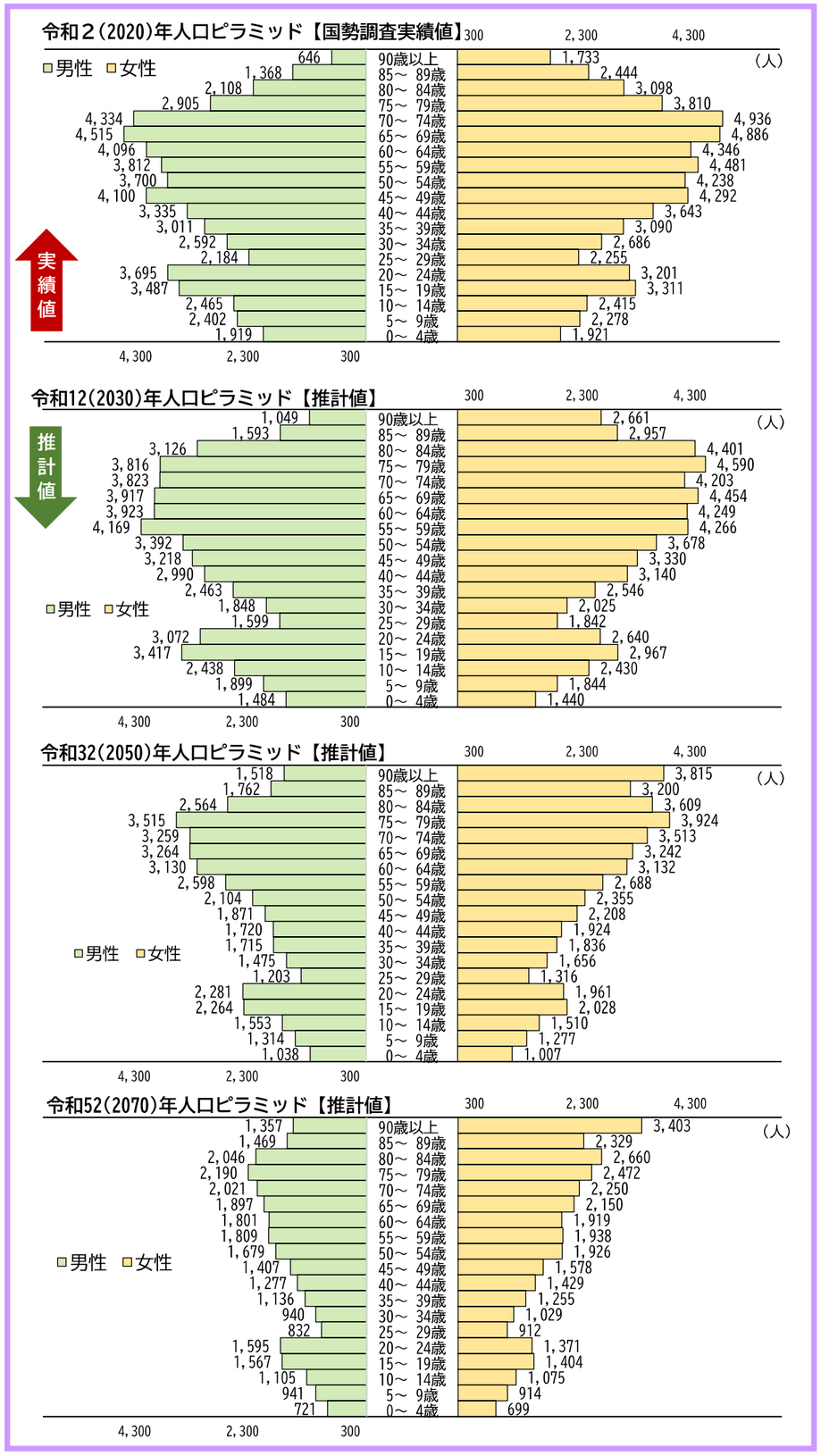
国勢調査の過去の実績値（人口）を利用して、「コーホート変化率法※」により、江別市の将来人口を 2070 年まで推計しました。

※コーホート変化率法の「コーホート」とは、ある年（期間）に生まれた人口集団を意味します。この推計では、「0 歳から 4 歳までの女性」「15 歳から 19 歳までの男性」など、男女別・年齢５歳階級別の人口集団を１つのコーホートとして、男女別の［0～4 歳］から［90 歳以上］までの合計３８のコーホートごとに推計しました。（各コーホートの推計値の合計＝総人口の推計値）
また、コーホート変化率法の「変化率法」とは、コーホートごとに過去の人口増減実績から変化率を算出し、その人口増減状況がその後も継続するものと仮定して将来を推計するものです。
推計に用いたデータは総務省が公表した国勢調査結果で、基準人口（直近の人口実績）は令和２（２０２０）年の１０月１日です。



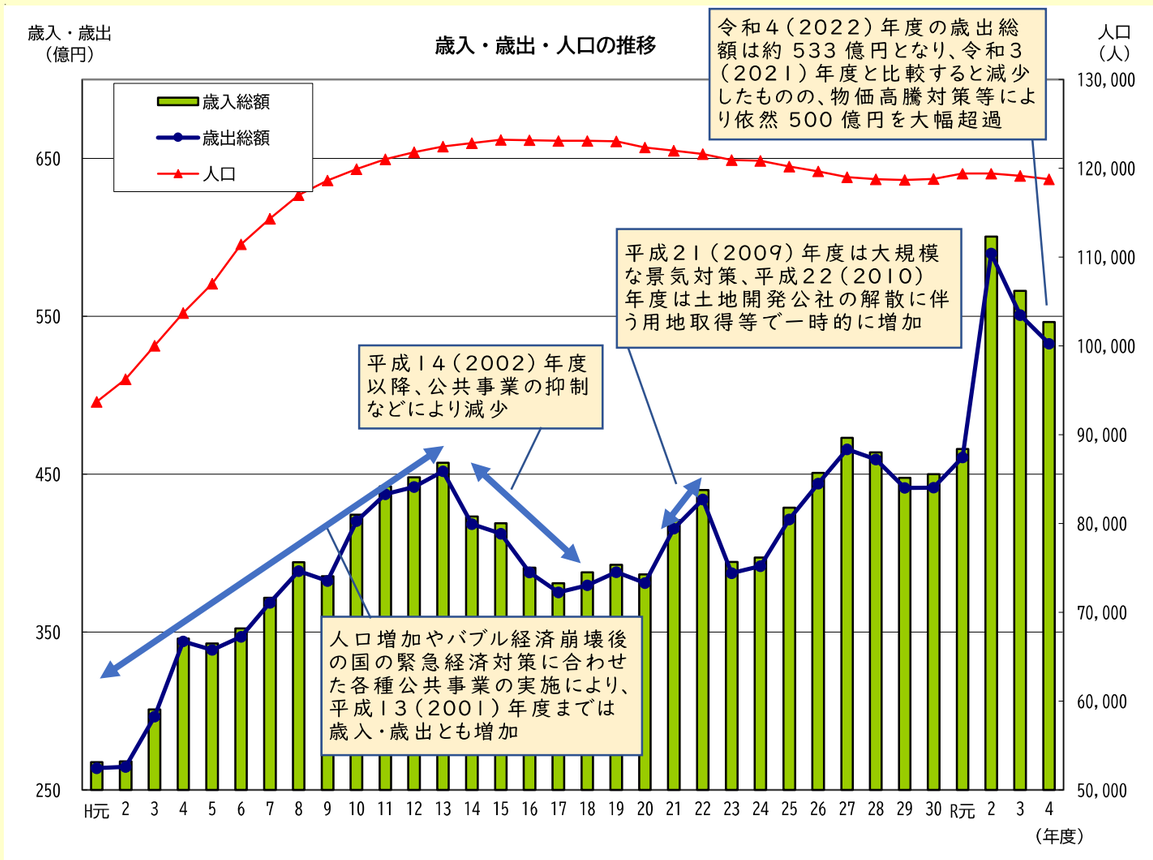


※令和２年まで（実績値）は、年齢不詳の人数を示していないが、令和７年以降（推計値）は、年齢不詳の人数を含めた推計

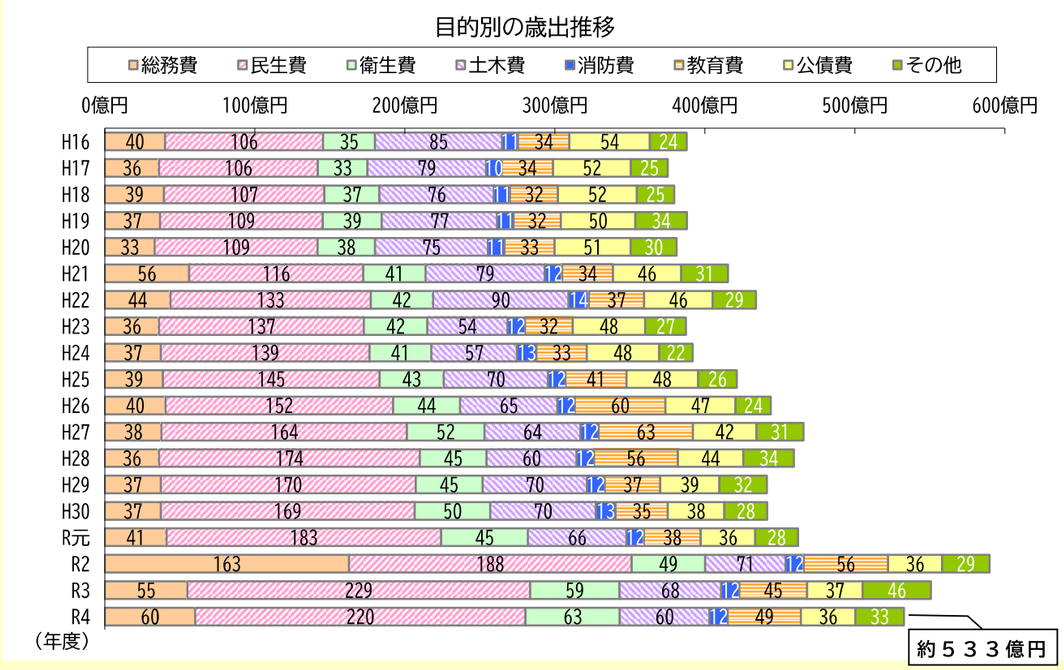


行財政について（「江別市財政の現状と課題」より）

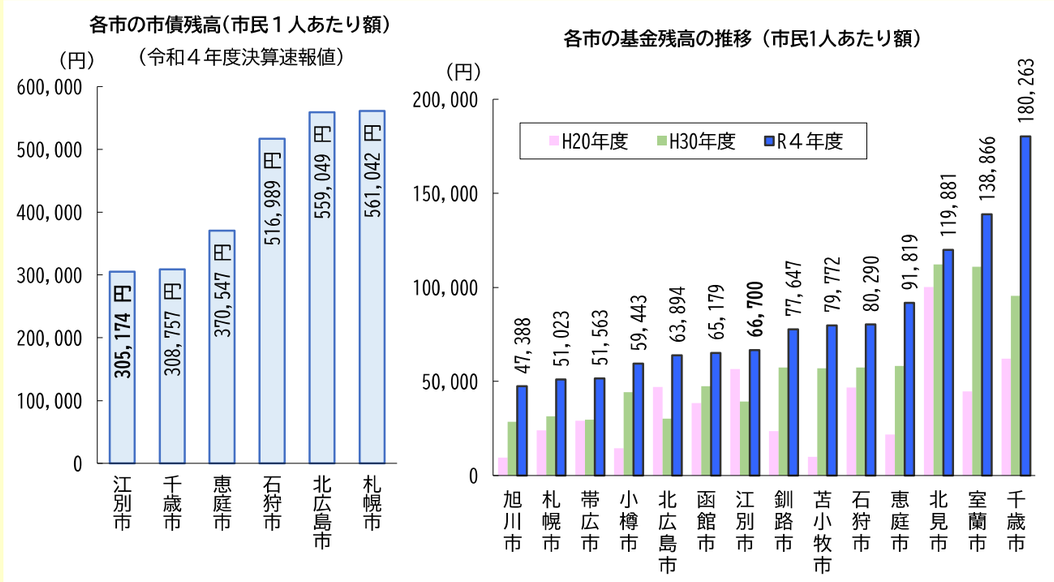
近年は、少子高齢化に伴う扶助費の増加、江別の顔づくり事業や学校の耐震改築、老朽化の進む公共施設の改修等による投資的経費の増加などにより、決算規模が大きくなっていました。
令和４年度の決算規模は、前年度と比較して減少したものの、感染症対策に加え、原油価格・物価高騰対策の実施等により、500 億円を大幅に超える規模となりました。



目的別歳出では、教育保育施設給付費や障がい者福祉などの「民生費」の割合が一番大きくなっており、全体の４割以上を占めています。
また、令和３年度以降、新型コロナウイルスワクチンを始めとする感染症対策により、「衛生費」が増加しています。

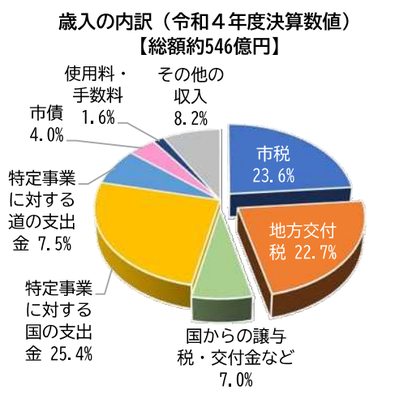


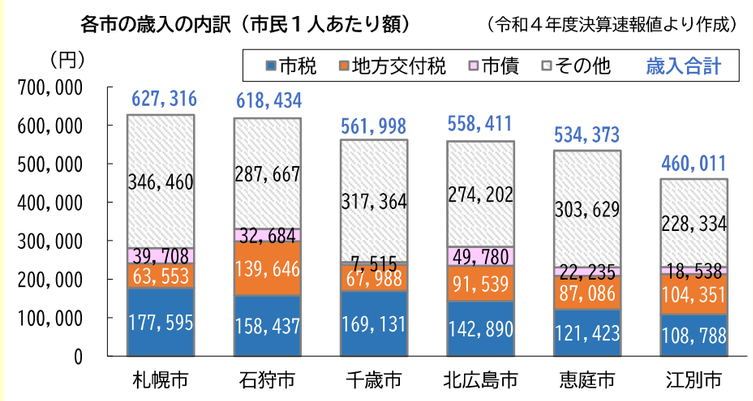
市債※残高（借入金）と、基金※残高（貯金）をそれぞれ、市民１人あたりの額で比較すると、市債残高は石狩管内の市では最も低く、基金残高は、市街地整備や学校整備等の大規模事業の完了や基金の取崩しの抑制に努めたことにより増加しています。



※市債：公共施設の整備などの建設事業を行うために必要な資金を国や金融機関など外部から調達する借入金
※基金：予期せぬ収入減への対応や将来のまちづくりのために積立てている貯金

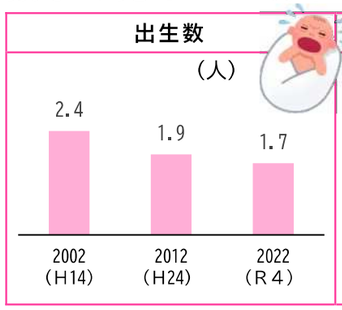
歳入の構成を見ると、市税と地方交付税がその中心となっており、歳入の半分近くを占めています。
歳入を市民１人あたりの額で比較すると、石狩管内では最も低く、また、市税の割合が小さく、地方交付税の割合が大きい状況です。江別市は大きな企業が比較的少ないことなどの理由により市税が少ないため、必要な一般財源の確保を地方交付税に大きく依存しています。



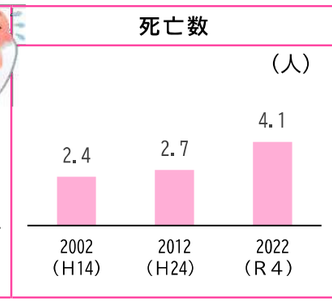


数字で見る「江別市の１日」

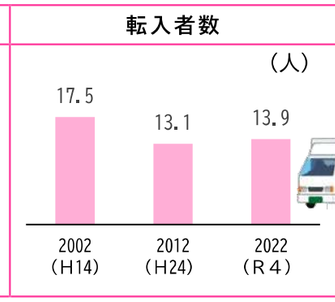
出生数



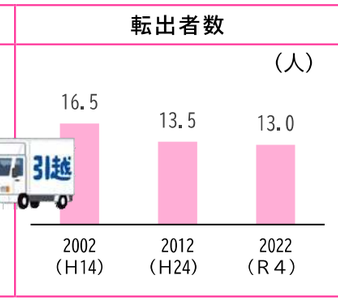
死亡数



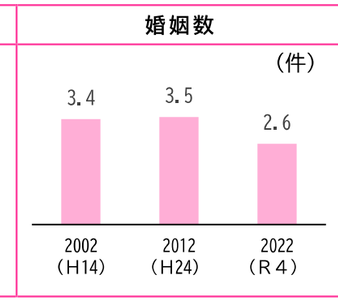
転入者数



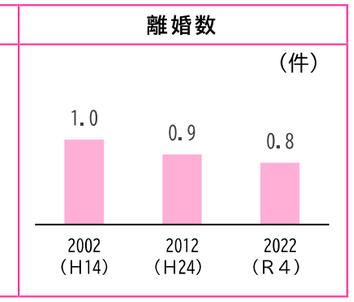
転出者数



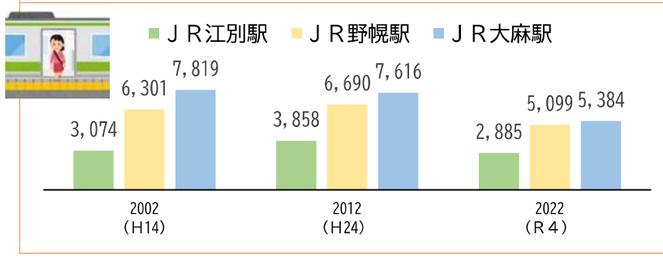
婚姻数



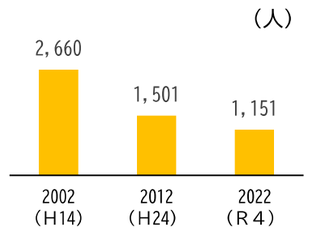
離婚数



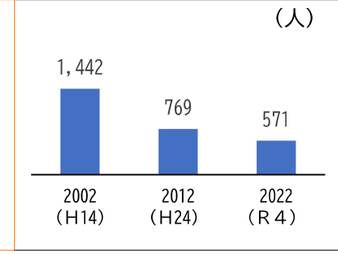
ＪＲ江別駅・野幌駅・大麻駅の乗車人員



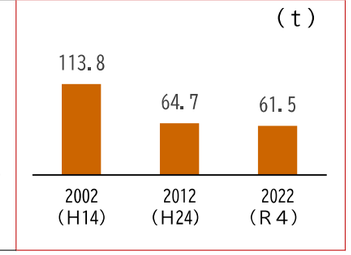
路線バス乗車人員（市内線のみ）



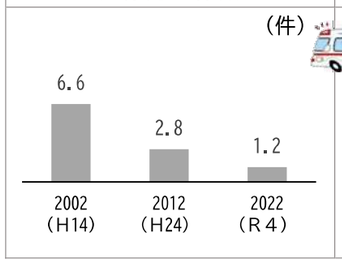
市立病院外来患者数



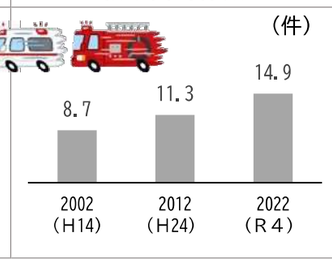
ごみ排出（収集）量



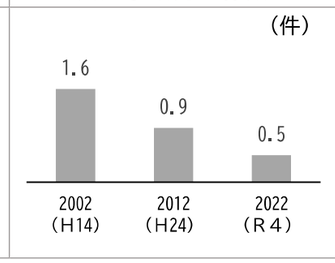
犯罪発生件数



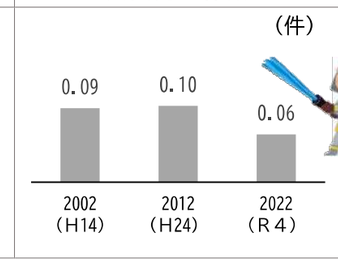
救急出場件数



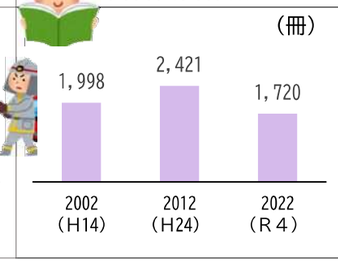
交通事故発生件数



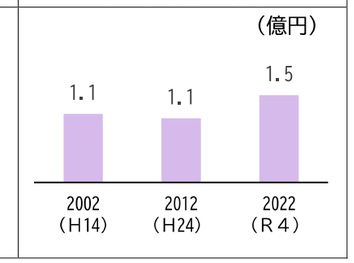
火災発生件数



図書貸出件数



市の歳出（決算）



もしも江別市が人口１００人だったら

男性は 47.4 人
女性は 52.6 人

小学生は 4.9 人
中学生は 2.9 人

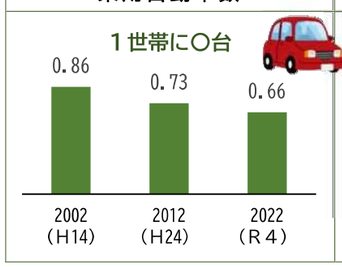
市内の大学に通う大学生※ 8.9 人

※市内の大学に通う大学生がすべて江別市民である場合

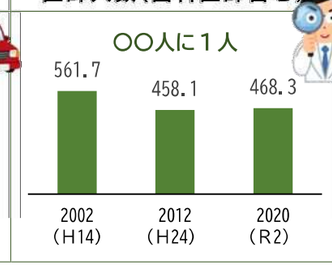
65歳以上は32.2 人
75 歳以上は 16.8 人

数字で見る「江別市民の暮らし」

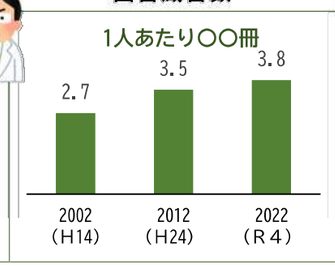
乗用自動車数



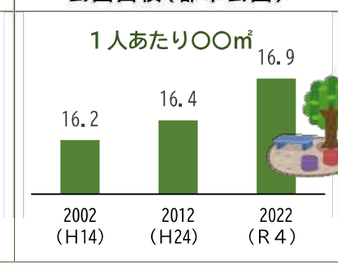
医師人数（歯科医師含む）



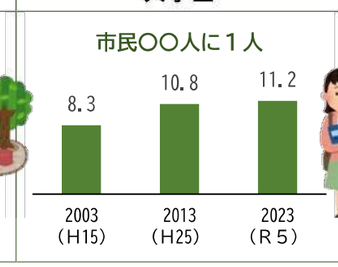
図書蔵書数



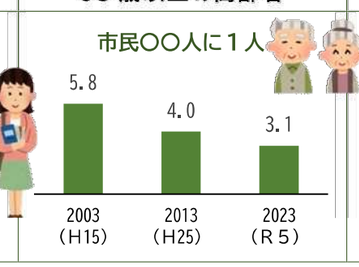
公園面積（都市公園）



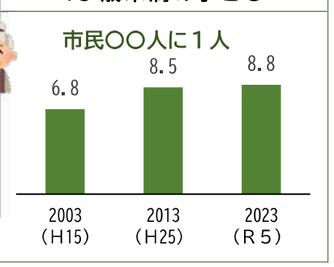
大学生



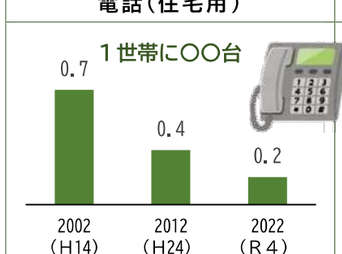
65 歳以上の高齢者



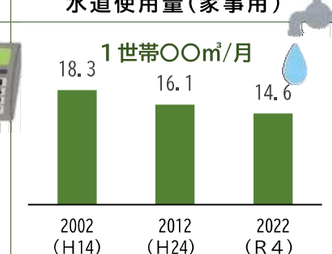
15 歳未満の子ども



電話（住宅用）

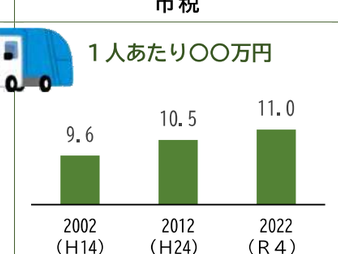


水道使用量（家事用）

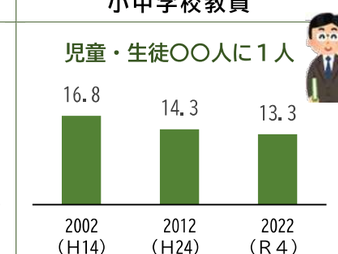


ごみ排出量

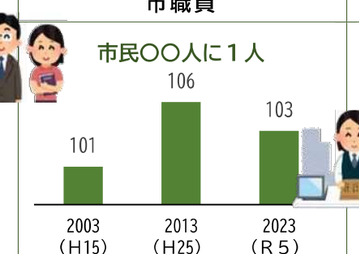
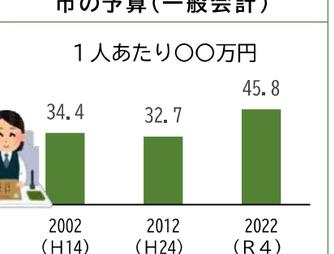
市税



小中学校教員



市職員



市の予算（一般会計）